

第二十二回（二〇二二年）

島木赤彦

「童謡」コンクール

作品募集のご案内

主 催

後 援

下諏訪町教育委員会
下諏訪町研究会
島木赤彦研究会

信濃毎日新聞社
長野日報社
長野新聞グループ
市民新聞グループ
エルシーブイ株式会社
島木赤彦研究会
長野県支部

応募要項

一、内容

赤彦童謡のよう、身近なくらしに取材した作品・諏訪の風土に合った作品（赤彦の時代を懐かしむような作品ではなく、現代の生活や風景などを題材にする。→島木赤彦全集・岩波書店）
第六巻掲載の童謡作品をご参考に）

二、形式

四百字詰原稿用紙二枚以内（何連でもよい）
※小中学生は教室に掲示した作品の一人一編も可

最初の行に題名
①児童・生徒は学校名・学年
②一般組・氏名（ふりがな）
③末尾に住所・電話番号

他は自由（パソコン・ワープロも可）

三、締め切り

十月五日（水） 当日消印有効

四、応募方法

児童・生徒は学校でまとめ、学年または学級別に一覧表（入賞者の賞状作成のため）を添付して、①氏名は漢字、②お送ください。③のふりがなを記載された学級名簿に題名を書き込んでも構いません。④一般は個々に送るかへお送りください。

① 富士見町立富士見中学校 事務局長 三九一〇二一 島木赤彦研究会 事務局長 三九一〇二一 長野県諏訪郡富士見町 四六五四

② 下諏訪町立赤彦記念館

長野県諏訪郡下諏訪町 一〇六一六一

③ 諏訪教育会事務局 一〇三三
〒三九三〇〇三三
長野県諏訪市諏訪一丁目二三一〇
※「童謡コンクール係」宛でお願いします。

五、賞

小学校低・高学年、中学校、一般の部
それぞれ以下の賞を贈ります。
・最優秀賞 一点
・優秀賞 二点
・優良賞・佳作 それぞれ若干名

六、審査員

左の団体より選出し行う。
・島木赤彦研究会（本会・長野県支部）
・下諏訪町教育委員会・諏訪国語教育学会

七、発表

十二月月中旬 後援する新聞紙上に掲載。
一月二十一日（土）赤彦記念館にて表彰式を実施予定。（変更または中止もあり）

八、その他

応募作品は、返却しない。
・入選作品の著作権は当研究会に帰属する。
・校内に展示した作品のコピー等原稿用紙以外、コンクールの応募も認める。（ただし、他の

※ 第十六回から第二十回までの作品と第十五回から第十九回までの楽譜の合冊集（第三集）を作成し、ご希望の方は第一集・第二集も残部が購入するか明記して、ご希望の小冊を替八百分（郵送料込）を添えて、①へお送りください。

え、一冊につき郵便小冊を替八百分（郵送料込）を添えて、①へお送りください。

【小学校低学年】

まがったきゅうり

じ分でそだてたきゅうり

二本はたべたよ

三本目はすぐまがってる

ばばがおぼんのうまに

ちようどいいって言った

えつうま

きゅうりとなすはうまとうし

おとうさんとじは

二人でのれるかな

前のとりあいしないかな

こんないまがっているから

二人ともおのれるよね

でもここにおいといていいのかな

むかえに行かなくてもいいのかな

【小学校高学年】

荷物がとどいた

大きなダンボール

もってみただけ

重くてもてず

そのなにか

私にはわかった

きつとじいちゃんのを育てた野菜

それとじいちゃんの思い

トマト ジャガイモ キュウリとナス

ギツシリ入った野菜たち

おじいちゃんが元気だと

知らせてくれた

もうしばらく会えていない

じいちゃんにさみしいと伝えると

じいちゃんはさみしがると

じいちゃんに会いたいと伝えると

じいちゃんのことを思う

きつとじいちゃんを思う

夏と冬しか会えないのに

夏も冬も会えなくて

いつになつたら会えるかな

私は笑顔で笑う

じいちゃんも笑顔になる

まつててねじいちゃん

【中学生】

芽だつたときはアリより大きく

トカゲより小さかつた

何年か経つとリスと

同じく経つになつていた

視界が広がつた

何年か経つと立つたヒグマと

同じく経つになつていた

世界が広がつた

知らなかつた生き物も植物も知つた

でも見上げた生木々がある

自分の何倍もの木々がある

それから何年も何年も経つて

私は森の一番の木になつていた

想像が広がつた

見上げれば青空も海も知つた

雲も見える

知れば知るほど想像が広がる

ねえあと何年経てば

新しい知らないことに

出会うかな

【一般】

笑つてわらつて

空にむかつて

ほらほら

小鳥たちもうたつてる

笑つてわらつて

星にむかつて

ほらほら

お月さまもほほえんでる

笑つてわらつて

花に話して

ほらほら

ちようちよもおどってる

笑つてわらつて

手をつないで

ほらほら

となりの子もわらつてる

笑つてわらつて

地球のみんなに

ほらほら

勇気がわき愛がうまれる

《参考作品》

夕方

母さん帰りが
おそいのか
夕日が暮れるが
早いのか
門のそとまで
出て見れば
三日月さまは
もう落ちて
田には蛙の
声ばかり

つらら

草家軒ばに
つららが下る
草家低くて
つららが長い
つららつらつら
日が出て光る
光きらきら
障子にうつる
やってきたのは
郵便くばり
頭かしげて
つららをくぐる

どんぐり

どんぐり山の
どんぐりは
落ちて落ちて
草の中
どんぐり山の
枯草は
分けても分けても
分けきれぬ
草を分ければ
手がひえる
どんぐり拾えば
日が沈む